

275.5-92



1200501358391

教育叢書
一輯 青年と公民教育

前田多門著



始



75
9

教育叢書第壹輯

青年と公民教育

文
部
省

前田多門述



公民教育

文
部
省

同
有
寄贈本



275.5
92

本叢書ハ公民教育ノ指導上適當ト認メラレタ
ル参考資料ヲ順次印刷刊行シ以テ社會教育關
係者ノ便ニ資セントスルモノナリ

昭和十二年三月

文部省社會教育局

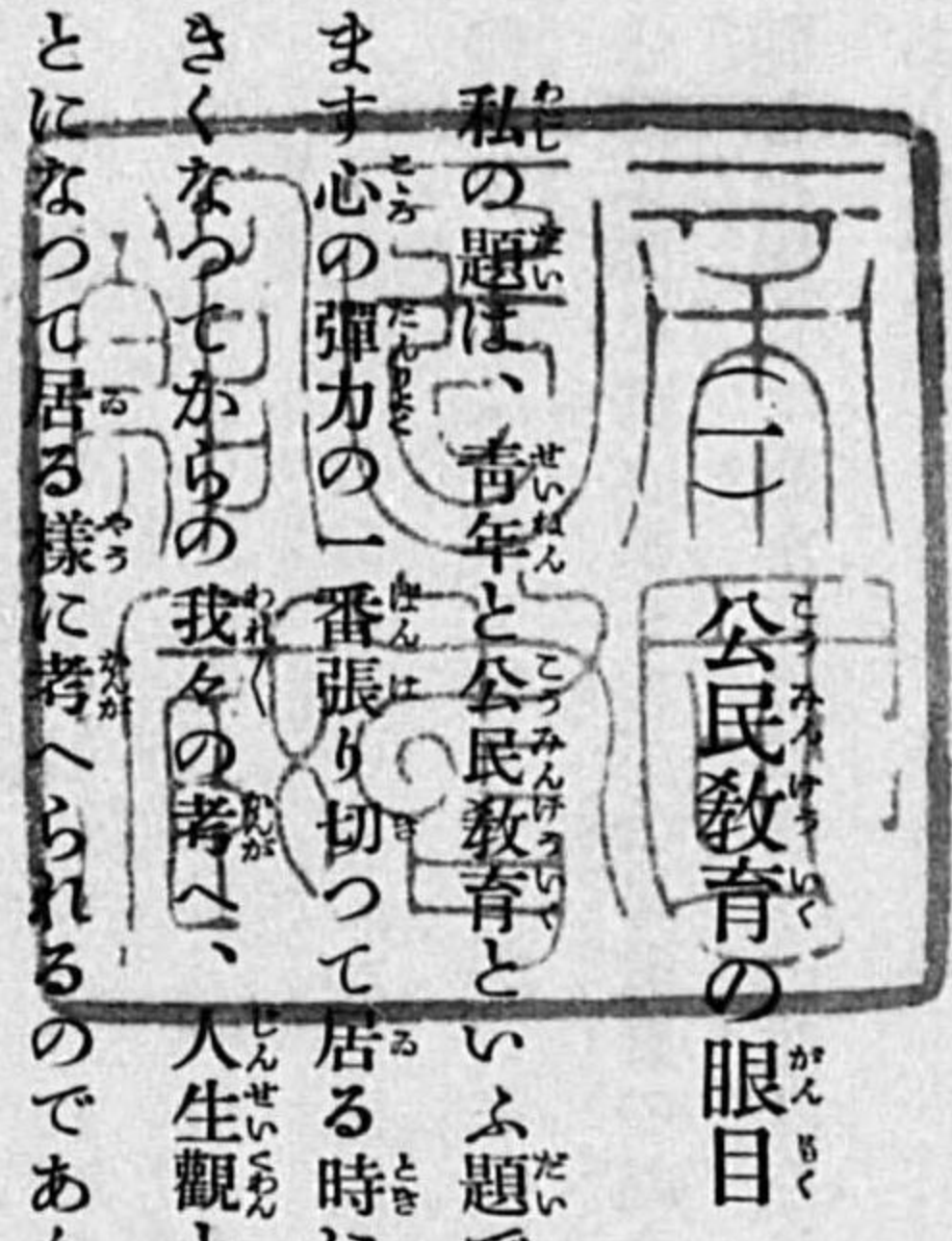


青年と公民教育 目次

一、 公民教育の眼目……………	一
二、 何が一番大切か……………	六
三、 實際的教育とは何か……………	八
四、 全部と一部、一部と全部の關係……………	九
五、 強固なる不動心の養成……………	一六
六、 公民教育の意義……………	二一
七、 我が國體及び政體……………	二七
八、 畏れ多き 陛下の御逸事……………	三一
九、 國體明徴について……………	三三
十、 帝國憲法の眞精神……………	三四
十一、 獨裁政治は我が國に起らず……………	三八

青年と公民教育

前田多門



私の題は「青年と公民教育」といふ題であります。申すまでもございませぬが、青年期の特徴であります。心身の弾力の一、番張り切つて居る時に、大切な事の基礎を教へなければならぬのでありまして、大きくなつてからの我々の考へ、人生観といふ様なものは、大體青年の時に植ゑ付けられたものが、もとになつて居る様に考へられるのであります。大きくなつてからの後の色々の事柄は、只その仕上げをするだけのものであつて、その根本的のものは、自分の僅な體驗から考へて見ましても、青年期の時に考へた事、教へられた事、或は植付けられた事がもとになつて居るやうで、千成りや、蔓一筋の心から

といふ古人の句の示して居ります通り、一番人生の基礎的なものは、青年時代に習つて置かなければ、もう一生涯それを把握する事が出来ない。これは必ずしも出来ないといふのではない。青年期以後に、壯年期以後になりましてから努力した者で、物になる者も稀にはございませうけれども、原則と致しましては青年の時に得なければ、一生涯に二度と得る事は出来ないといふ事が原則の様なのであります。その點から見まして、公民教育の如きは人間の人生觀に關係のある事と思ふのであります。人間の、自分の心の本心から出たその人生觀が、外部との接觸に於て即發して、色々な人生生活の諸作用になるのでありますが、その、己れの心の養ひといふ事と、外部の接觸、外部社會との交渉といふ點に於きまして、公民教育の如きは最も基礎的なものであつて、是非これは青年期のうちに眞髓を把握して置かなければ、一生涯それに届かないで、謂はゞ人とならず終る事となると思ふのであります。

御案内の通りに、近頃は文部省の御方針も、公民教育といふものと修身といふものとは、一つのものであつて、盾の両面の如くであつて、これを一緒に扱はなければならぬとお考へになられました。以前は中等程度の學校に於ては、法制經濟といふものを教へて居られたものを、今日は之を公民科として授け、更に青年學校の如きは、修身及公民科と一つのものに致して、修身即ち公民科、公民

科即ち修身といふ様にお扱ひになりました。そしてこの、只修身と言つても、抽象的に物の議論をするのではない。徳目を並べてそれを教へるといふだけでは、決して物に徹しないのであつて、修身生活といふ事は、國家及び社會に對する處の、公民的活動といふものと終始致さなければならぬのであるからして、本當に道徳的生活を生きたものとさせる爲には、之を公民科に結びつけて、修身及公民科にしようとお考へになられたやうであります。誠に私は要點を狙つて居られる事と思ふのであります。その爲でございませうか、この節修身及公民科の——青年學校に於ける修身及公民科の教授要目を御調査になりました。私の如きもその調査委員會の委員の末席を汚して居りますが、大體只今その調査委員會に於て、皆さんが問題を練つて居るその状況を末席に於て私、拜見して居りますと、委員諸君のお考へも、文部當局のお考へも、從來の様な只徳目を列記して、或は法制經濟の知識を列記して、筋のない事を列記するといふ様な事を寧ろやめてしまふ。これは一つ／＼さういふものを拾ひ上げるといふ上からいへば、或は隙だらけのもの、穴だらけのものが出来るかも知れませんが、けれども、さういふ列擧的事柄よりは、一番大切な事を一つ狙つて、基礎的な事を一つ深く掘り下げて行く。そして、青年期の時に之をしつかりと身に占めて持つて居らさなければならぬ。人生二度と再び神髓を把握する事の出来ない大切な事をこの時期に於て把握させたいものだと考へるの

であります。この皆さんと共に我々が只今やつて居ります事柄は、或る意味に於きましては非常に缺點だらけのものでありませう。具體的な事柄の知識といふ事、それも閉却する事は出来ませんけれども、それよりは寧ろ本當の心の持ち方、その心の持ち方さへもつて居れば、將來年を取るに従つて經驗が出来、色々社會と接觸するに従つて、自ら宜しきに従つてその力を伸ばして行く事が出来、具體的の知識も確立する事が出来るが、そうし得る處の元の力を青年に持たせたい。かういふ様な氣持で出来上りました結果、色々御批判を仰ぐ事の機會が起つて來ると思ひますが、或る意味に於て非常に漠然とした様な、今迄とは少しく型の違つた教授要目の調査をやりかけて居る譯であります。畢竟趣旨はそれとこれにある譯であります。例へば政府なら政府の事を云ふにしても、今迄の教授要目に依ると、その政府の事に就ては、只それに關係ある色々々の題目だけ並べてある。或は内閣或は各省の仕事、或は樞密院の仕事、樞密院といふものはどういふものか、或は法制局とはどういふものであるかといふ様に題目が並べてありまして、そして教科書の如きもさういふ題目の一つでも落ちれば檢定に通らない。かういふ様になつて居るのでありますから、成る程具體的な知識を相當普遍的に教へるには、その方が都合が宜しいかも知れぬ。また人として知つて居らなければならぬ事を一から十まで記載されてあれば、それに越した事はない。然し、それを列擧しても、尙それで足りたといふ譯に

はいかない。かういふものは、寧ろ我々の考へる處によれば、何かの機會に雜誌を讀んだり、人に接觸するなりで、さういふ様な斷片的な知識は、ひとりでに判る。だから、一番大切な問題、公民なら公民として一番心得なければならぬ事は何であるか、國體の本義といふ事は何を究極して考へて行かなければならぬか、公民といふ意義はどういふ所に尊さがあるかといふ様な事に狙ひをつけて、又裁判所なら今までの様に只裁判所といふものには大審院がある、控訴院がある、或は地方裁判所があるといふ風に平面的に並べて覺えて見た處が、ごく淺薄な、一寸した物知りになるかも知れませんが、裁判といふものゝ眞義を把握する事は出来ない。その一番大切なものは何であるかといふ事を狙つて、青年期に一番植ゑつけて置かなければならぬ根本的の種子を選んで、その種子を植ゑ付けるといふ事を眼目に致し度いと考へるのであります。

教育の事柄に於てもさうであらうと思ひますが、世の中の事すべて大切な事は、何を省くべきかといふ事が、何を加ふべきかといふ事よりも大切であると思ふのであります。世の中が進歩致しまするにつけて、色々のものゝ數が加はつて來て居る。煩雜の度といふものが加はつて來て居る。で、すべて社會の各方面の活動に於て、何を省くべきかといふ事が大切な事ではないだらうか、それは反面から言へば、一番大切な事を撰つて、それを摺むといふことなので、かういふ處に着眼して行く事が一

一番大切な事ではないかと思ふのであります。その意味に於て、私は青年に對し、又青年團に於て公民教育をなさいます時に於て、撰り分けて行く心持が大切であると考へるのであります。

(二) 何が一番大切か

そこで、一番大切な事は何であるか、殊に公民科を中心として、表、裏から教へて行くには、何が大切であるかといふと、人生の目的は一體どこにあるか、立志の目標は、志を立てる目標はどこにあるか、その點にあらうと思ふのであります。

孔子は『我れ十有五にして學に志し、三十にして立ち、四十にして惑はず、五十にして天命を知る』と仰せられた。その孔子様の學に志しといふその學はどういふものであるか、我々凡夫から見ますといふと、之は餘程程度の高いものでありませうけれども、孔子でなくても十五過ぎては何か漠然たるものでも志を立てる。色々の夾雜物がそれには入つて居りますけれども、志を立てるといふ氣持は當然起つて来るでせうが、この志を立てる場合に於て、皆さんが御指導なさるに就てこの立志の目標といふものはどういふ處にあるか、…それから又、人間十五位から始まりまして、そ

ろく一生涯の職業はどういふものにつかなければならぬか、といふ事も考ふべき事でありませう。その職業を選ばうと致しまする場合に、何を目標にして居るか、又職業に依つて必ず人間は社會上色な繋りを生じて来るのであるが、その繋がりについて何を大切な狙ひ所としなければならぬか、かういふ様な一番大切な問題に對しまして、皆様は水を注ぎになり、お育てになる、又色々の害蟲を驅除になるのであります。

近頃は世の中もせち辛くなりまして、殊に農村地方に於きましては、昔、青書生が考へて居りました様に、所謂青雲の志、大臣大將になるといふ様な事は、環境上許しませんし、又有り得ないと思ふのであります。で、或る意味に於ては志は小になり過ぎて居るといふ點を憂ひとしなければならぬと思ふのであります。然し乍ら誇大妄想的な、青雲の志といふ様なさういふ弊害からは除去されて、皆が地味な眞面目な考へを持つ様になつて參つたと思ふのであります。然し乍らそれと同時に、その職業の選擇なり、立志の目標なりが地味であると共に、たゞそれは人間が衣食住をするといふだけの爲にさういふものを選ぶのでなくて、成る程目の前には衣食住の問題を解決する爲に職業を選ぶのであるけれども、それがこの世の中とどういふ風に繋がつて居るか、國家とどういふ風に繋がつて居るかを考へ、同じ生業をして衣食住の資を得るにしても、やつて居る事が直接間接に世の中の

奉仕になる、その程度が一番高いものを選んで行かなければならぬのである。同じ性質の仕事にしても、公私に一番餘計に貢献する職業、社會への奉仕、國家に對する奉仕に餘計貢獻して行く職業に對する態度といふものは、どういふものであるかといふ兩方面に就て考へさせて行く事が必要であらうと思ふのであります。人の世の中に生れたのは、何の爲に生きて居るのでありますか。これは所謂人生上の一種の煩悶であります。この青年期に有り勝ちな一つの心の動搖であります。この動搖、煩悶のあります事が一面に於てその人間の向上する一つのモーメントでありますから、その煩悶動搖の機會を捉へて、その青年の心眼を開いてやるといふ事は、一番或る意味に於て實際的な教育であらうと思ひます。

(三) 實際的の教育とは何か

只、近頃良く教育が實際に即さなければならぬ、實際的の教育をしなければならぬと言ひますが、その意味を往々穿き違へて、卑近低調なる處の、目の前に間に合ふ處の、衣食住に於て優越的な地位を占める様になれば宜しいといふ意味に於ける實際教育、それで全部を盡してしまふと考へる事は、概かほしい事であつて、世の中が功利的になつて行くのはさういふ點にあると思ふのであります。

實際教育といふ中には、さういふ様な具體的な、功利的な技能を練習させるといふ事も必要でありませうけれども、もつとその根本に遡つて、その職業から、大きく言へば天に向つて如何に繋がるか、國家に向つて如何に繋がるか、或は社會に向つて如何に繋がるか、その意味に於て、一番能率的に社會奉仕の出来るものが、人世に於ける處の、一番の成功者である。かういふ心持を養つて行く事が一番實際的の教育であるといふ事が言へるのではないかと思ふのであります。

それから同時に、人生の目的といふものを充分に把握させますならば、當然起つて来る事は、全部と一部、一部と全部との關係であり、この關係が明かになつて來なければならぬ譯でありますし、又此の關係を明かにさせる事が公民教育の大目標ではないかと思ふのであります。自分は全部の一部であり、一部が全部に對する處の態度、その責任を盡すといふ事は、どういふ様に致したら宜しいか、この事を考へるのは、公民教育の大切な狙ひ所ではないかと思ふのであります。

(四) 全部と一部、一部と全部の關係

近頃は國家主義が非常に強調されて居る時代であります。所謂團體主義、或は全體主義が非常に強

調されて居る時代であります。

これは、人は協同しなければならぬし、事自身として、又我が國の國體の本義として、殊にそれに於て強調しなければならぬのであるし、又社會的に於て之を強調しなければならぬ場合にあるのであります。

けれども、この國家主義、或は全體主義といふものを強調致しまする場合にも、茲に考へなければなりません。全部と一部との關係、一部と全部との關係といふものを明かに知りつゝ進んで行く事であると思ふのであります。如何に全體主義が大切であると致しましても、社會といふものは魂のない一隊が集つて居るのではない。國家といふものは、魂のない物質が集つて、そして一つの國家的統制に服して居るのでなくして、みんなそれ／＼激刺たる處の生命を有つて居り、又否む事の出來ない個性を有つて居る人間が、相集つて、そしてこの國家の爲、社會の爲に團結をして行くのでありますから、一面に於てめい／＼に個性を尊重し、自發的にめい／＼の心から進んで、『我は國家に對して何を捧げて行かなければならぬか、我は團體に向つて何を捧げて行かなければならぬか?』と考へ、只群集的心理によつて、軍歌を歌つて、軍歌によつて鼓吹されて只一時的統制によつてさういふ氣持を持つのでなくして、獨りを慎む心持を持つ、人無き處に於て夜遅く、或は朝早く神明に對し

奉つて恥ぢない心持、謂はゞ神と差向ひになつて、自分の心の奥底から進み出づる處の、全體に對する一部の責任、かういふものから發足を致して、そして茲に本當に有難い處のこの國體を奉戴し、我が國民としての國家的活動の爲に進んで己れを殺す。かういふ心持が、裏も表もない心の奥底から起つて來る。それには矢張り全部と一部の關係、一部と全部の關係といふ事に就て、誤りのない認識を以て、一人々々の青年の煩悶、色々な不安といふ様な所にまで立入つて、細かに國家的教育といふものを施して行かなければならぬと思ふのであります。それで、現在の時代は、國家的全體主義を尊重しなければならぬと共に、之に就て深く考へなければならぬと思ふ様に確信するのであります。デビュランといふ佛蘭西の社會學者が、自分の國の國民性と英吉利の國民性を比較致しまして、そして非常に自分の國民に向つて警告を與へる意味の著述を致した事があるのであります。その中に非常に面白く、我々にとつても參考になる事を云うて居ります。それは、『團體と個人との關係に於ては、率直に言へば之を二通りに分ける事が出来る。それは一つは、自分が團體より何を得るかといふ事を考へる事が一つ、第二には、自分が團體に向つて何を捧げるかといふ事を考へるのが二つである。處が本當に銘々の心持を磨き上げて行かないで、めい／＼の心持を磨き上げるといふ事を怠つて、只大量生産的に、只一時の昂奮的に團體主義を強調する場合に於ては、往々陥る處の弊害は何である

かといふと、團體主義を強調し乍ら、團體主義を讚美し乍ら、實はその團體に依つて、自分が何かの利益をする、團體のお蔭で得をする、かういふ氣持の方に走り易いものであつて、本當に自分が、人が見て居ると居ないと拘らず、自分が團體に如何にして物を捧げるかといふ事を忽にし勝ちである。』といふ事を言つて居ります。そしてデビュランといふ人は、自分の國民性、即ち、團體主義の國民と言はれて居る佛蘭西人の國民性と、個人主義だと言はれて居る英吉利人の國民性とを比較し、この遣り方を比較して、色々な方面に於て論述を致して居りますが、デビュランに言はせますと、『英吉利は個人主義と云ふけれども、然し乍らそれが責任心の現はれといふ事になると、却つて彼等は國家の爲に、結果に於ては非常に大きな貢獻をして居る。例へば英吉利が海外に領土を澤山持つ様になり、太陽没する事のない程領土を持つといふ結果を來したのは何であるかといふと、めいゝが自分で進んで行つて、政府の保護が無くとも、そこに行つて仕事をする。クライブが印度に行つて仕事を起し、會社組織でやつて、印度を統制した。そして遂に印度が英吉利領になつてしまつたといふ様に、或はセシルローズが、單身で南亞弗利加へ行つて、どんく自分でもつて危険を冒して戦争をする。そして後にポア戦争といふものが起つて、政府が南亞弗利加を治める様になり、かうして領土をだんく擴げたのであるが、かういふ様な結果を生じたのは、みんなに潑刺たる精神が盛である。

るが故に、政府から保護を得なくても、補助を得なくても、自分の力で一つ進んで行つて、物を經營しようといふ心持が盛であり、一面に於て個人主義の弊害もあるけれども、然し乍ら、この、人に頼らないで、自分で進んで仕事をする、かういふ心持が原動力になつて、結果に於て英吉利は寧ろ世界に領地を餘計持つやうになつて來た。

處が佛蘭西といふ國は、英吉利人に較べると、所謂コレクティブイズム、團體主義を特徴として居るのである。けれども、古來佛蘭西は外國に進出出来ない、寧ろ消極的になつて、不自然なる人爲的の産兒制限を行つて人口の増殖を減らさうとした。そして今日では、人口が減つて居るといふ状態である。

その爲に、愛國心は如何にも盛である、パトリオティズムの爲に死ぬといふ事は、佛蘭西人の特徴とする處であるが、それはデビュランが書きました後に、世界戦争が起つたが、佛蘭西人は戦争には非常に強かつた。さういふ様な氣持はあるけれども——然し乍ら、残念な事には、本當にめいゝが自發的に國家の爲に、一つ奮つて起つ、かういふ氣持がなくて、群集心理で只行く、さういふ事がある爲に、進んで物をするといふ氣持がない。その爲に植民地も發展し得る時に發展出來ず、國勢に於ては英吉利にかなはぬ。之はつまり、團體と個人との關係に於て『團體より何をすべきか』と

いふ事に於て團體主義が強調されるものであつて、『個人が團體に向つて何を捧ぐべきか』といふ意味に於て團體主義が發展をして居らないのである。その點は、矢張りこの個人に置きを置くといふ英吉利人からも、學ぶべき所があるではないか。その點を、色々な社會現象に即して比較して見ると、例へば佛蘭西では、親が子供を育てる時に、多く『月給取りにし度い。』といふ。そして役人萬能で、役人たる人は、その子に純役人の生活をさせる事を以て誇りとする様な心持をもつ。之に反して英吉利人は、先づ一人立ちで商賣をさせる。實業をやらせるといふ心持で子供を育て、行く。その爲に、議員を職業別にすると、同じ國會議員の職業でも、佛蘭西人はどつちかといふと寄生蟲的な職業の人が議員に多い。英吉利の議會は獨立獨歩的な職業の人が多い。それが議會の氣風に現はれる際はどうかあるか?……』

といふ様な點を述べて居るのでありますが、我々はこの國家主義に立つて行きます處の國民にとりまして、デビュウランの申します事は、一から十まで承服が出来ないに致しましても、他山の石としてお互に考へて行かなければならぬ點があると思ふのであります。只、スローガンを掲げて群集心理的に、丁度バステイルの牢獄を破つたといふ妄動を起したといふ様に、只一つのスローガンに引ずられて、深く物を考へるといふ事無しに雷同的に群集的の行動をする。その事が何も尊い團體主義で

も、國家主義でも決してないのであつて、神明に對して自分の心を本當に細かに分けて、さうして自分で考へて行つて、天地に對し、國家に對し、社會に對する處の自分の分を如何にして盡すか、かういふ細かい處まで立入つて、それが元になつて居る國家主義でなければ、いざ事のあるといふ時に於て何にもならぬ非常に内容空虚のものである。従つて一度破綻に直面致しました時に於きまして、まるで所謂カードの城の様な、カルタの、紙の札で拵へた様なものは、忽ちに瓦解してしまふ様な恐れがあるのではないかと思ふのであります。でありますから、國家主義を重じなければならぬ時代に於きまして、同時にその國家主義を基礎から鞏固に致しまするには、全部と一部の關係、一部と全部の關係に思ひを致す事が必要であると思ふのであります。

只今、此の編纂委員の皆様と共に、調査委員の皆様と共に鍊つて居ります公民科の教授要目などに於きまして、さういふ様な點に於て、矢張り目を注いでいらつしやる方が相當多い様に考へられるのであります。

そして、この我々の國民性に於て警戒しなければならぬ事は、雷同的な、只その時々にありますスローガンを、本當に理性を以て納得する暇を與へないで、感情的に、激情的に雷同致し、更に進んで迎合致して、その時代の流れと共に、昨日は右に明日は左に行くといふ様な事を避けたいものであ

る。かういふ様な氣持が、我々同職の中に強く動いて居るやうに私は考へて居るのであります。

(五) 強固なる不動心の養成

大變この卑俗な例を申上げて恐縮でありますけれども、實際にその場合に於きまして、深く感に打たれて、これではならないと思つた感想がありますから、有りのまゝ申しますといふと、嘗て七八年程前でありましたが、餘程左傾思想などが青年の間に、之も所謂スローガン風に、一種のはやり病の様に、さういふ考へが兎もすれば高等教育を受けて居る青年、都會の青年などの間に有たれて居りました時代に、『西部戦線異状無し』といふ小説が非常に賣れました。そしてあの芝居が方々に演じられた事があります。東京市内でもあの芝居を演じて居る。然も『西部戦線異状無し』といふ芝居を見ますと、それ程妙に左がゝつたイデオロギーの爲に書かれて居るとは思へない。寧ろ素朴な戦争の實戦記の様でありますけれども、我が國にあれが移される場合には、非常に左翼的な色彩に翻譯を致しまして、沉んや之を劇に演じます時に於きましては、非常にさういふ種類の極端な、反軍的な氣持で之を上演し、私は現に芝居を見て參つたのであります。極端な反軍的な言動を、各幕毎に致し、その時に於ても之を見て居ります聴衆は、一齊に軍を罵るといふ様な表情をする。警察官が之を

抑止致しましても、その抑止を潜つて、例へば陸軍將校などに扮装して場に現はれるといふと、之に對して聞くに堪へない様な言辭を弄する。その時に私は觀衆の一人として之を見て居つて、非常に何と言ひますか、何とも言へない淋しい氣持になり、我々の國民性に對して一つの懷疑の念に打たれたのであります。さう申しますのは、こんなに感情的に、極端に此の反軍的な言辭を弄したり、反軍的な表情をして自ら快として居るかういふ國民が、日露戦争の場合にはどうであつたかといふと、一生懸命になつて軍隊の爲に支持後援の熱誠な聲を放つた國民ではなかつたか。今日何等根據がないにも拘らず、浮動して居るやうな、動搖して居るやうな一種の流行思想に頭を冒されて、意味も無しにかういふ様な聲を發するといふ事は實に慨嘆に耐へない處である。かういふ様な風で進んで行つたならば、國家の將來といふものはどういふ風になるだらうか。淋しい重たい心持を以て私は劇場から歸つた事を今以て覚えて居るのであります。それから後數年経つて、滿洲事變が起り、今日の様な時局になつた。只今より二三年前の、例へば上海事變の起りました時に、私は同じ劇場に參つたのであります。その時は、劇場に於て競つて事變のものを上演致す時にはまるで打つて變つた様に觀衆といふものは喚呼して軍人を迎へる。軍國的な色彩に向つて一齊に拍手喝采を送つて居る。かういふ様な状況であります。或はその前の劇場の場合に集つた觀衆と、後の場合に於て劇場に集つた

観衆と、種類が違ふかも知れませんが、然し同じやうな劇場に於て、僅か三四年を隔て、斯くまでも手の裏を翻へした様に、手を翻せば雲となり、手を覆へせば雨となる、かういふ様に只その時代の潮流、時代のスローガンに軽々しく動かされて、全然雲泥の様な態度を表する、かういふ様な国民性といふものに對して、我々は果してどう考へなければならぬのであるか。その時その時の浮雲的思想、スローガンに依つて動かされる事よりも、もう少し深く掘り下げて、何か本當に動かぬものを一つ覺悟したら良い。火移りは少し遅いかも知れないけれども、然し乍ら一刻、日一日と同じ方向に向つて物を積上げて行くと云つた様な物の考へ方をして行く。かういふ様な、もう少し重厚な心持を養つて行く事が必要なのであつて、之は確かに我々が反省しなければならぬ處の一つの缺點ではないか、斯様に痛感を致したのであります、皆様は之に對してどういふ様に考へになりますか。

どうか本當に理性から立脚致しました君國に對しまする處の我々の考へ、全部と一部、一部と全部の關係といふ事に就て、重厚な心持といふものを養つて行きたい。之が私は公民教育の一番基礎的の用意として考へて行かなければならぬ事ではないかと思ふのであります。孟子の言はれた『自ら省て直くんば千萬人と雖 我往かん』、かういふ言葉は、その言葉だけを捉へて行きますと、解釋のし

ように依れば非常に個人的である。『自分に考へて正義だと思ふならば、自分は獨りぼつちであつても千萬人を相手にしても往く』といふ事は、つまり皆の仲間入りをしないと云ふ事なのであつて、之は個人主義である。かういふ様に批判する事も出来るかも知れません。然し乍らこの言葉が、矢張り感激深い青年なんかの氣持を動かしまして、何か鼓舞するに違ひないと思ふのであります。獨り青年のみならず、『自ら省て直くんば千萬人と雖 我往かん』といふ言葉は、色々の場合に於きまして、我の衰へんとする處の士氣を鼓舞する千古の金言であります。自分で本當に良心に省て正しい事ならば、千萬人と雖も我往く、といふ心持を有つて居る人こそ、聊か逆説のやうでありますけれども、結局さういふ氣持の人のゐる國に於てこそ、本當に強い國家的活動が出来る。自分の心から正しいと思ふ事だからやる、正しいと思ふなら、どんな障害と雖も突破する、かういふ毅然たる心持を有つて居る人間の團結に於てこそ、始めて頼もしい處の國家といふ事が出来るのではないかと思ふのであります。この事に就て、私、非常に面白いと思ふ事がありますので、非常に感じて居るので恐縮でありますがお話して見たいと思ひます。

シラーといふ獨逸の詩人が書きましたスイスの義民傳、ウイールヘルム・テルの戯曲を見て非常に感じました事は、一番最初に義民のウイールヘルム・テルがスイスの獨立の爲に、三つの州の色々の勇士

に説かれて、『是非自分等の企てに参加して、一緒になつてスイスの獨立を圖らうぢやないか、愛國の爲に一旗擧げようぢやないか』かういふ事を言はれた時に、テルは變り者でありますから、仲間には入らない。その時に云ふ言葉があります。

「本當に強い者は、たつた一人で居る時に於て一番強いものである。」そしてその仲間には入らなかつた。やがて戯曲は進んで、その間に色々なエピソードがありますが、色々な迂餘曲折を経まして、それから最後の幕になつて、テルがスイスの國家の爲に手柄を立て乍ら三つの州の勇士と手を握つて合流し、愈々スイスの獨立の礎を固めようといふ時の最後の言葉に、『成る程、たつた一人立つて強い人こそ強いものだが、さういふ様な人間が本當に手を合はせて起つた時に於てこそ、一番強いといふ事が出来るのである。たつた一人で強いやうな人間が本當に心から手を合はせて起つた時こそ、一番強いものである。』といふ處で終りになつて居りますが、私は非常にそこに玩味しても盡さないやうな意味を有つて居ると思ふのであります。

國家、團體を云ふの餘り、只國家、團體といふ強い牆壁の前に自分が身を置いて、風當りを防いで行き、そのお蔭でもつて自分が甘い汁を吸ふ、かういふ様な氣持を青年に起させない爲に、寧ろ困難艱苦の間に、迫害の間に、本當に忠君愛國といふ氣持は起さるのであつて、めい／＼が愛する處の國々のであります。

(六) 公民教育の意義

私、色々な機會を得て申す事でありませんが、一體この公民教育の公民といふのは、どういふ意味なんだらうか、といふ事を常に問題に致すのであります。

公民といふ事は御案内の通りに、只所謂法律上の、市制、町村制の上に於ける公民とは餘程違つてもつと廣い意味のものであります。そして法律上の公民とは違ふ事は云ふまでもない事でありませぬ。あの公民といふ資格などより、もつと廣い意味に於ける公民といふ事で、お互ひに公民教育を考へて居るのであります。然らば公民教育とは何であるか、又公民とは何であるかといふ事をお互ひに考へて参りたいのであります。殊に問題になりますのは、公民と國民といふものゝ差はどこにあるかといふ事であると思ふのであります。公民も國民も、之は國家に對する關係に於て考へられる觀念でありまして、人間としての只個人的な、私的生活に於ては公民といふ言葉も國民といふ言葉も有り得る

筈はないのです。ですから公民と謂ひ、國民といふのも、皆之は國家あつてのめい／＼の生活といふ事に關聯のある事でありますから『それならば何も國民と謂へば宜しいので、何も公民といふ言葉をわざわざ使はなくても宜しい。國民教育と言へば宜しいのであつて、公民教育と言はなくてもいいぢやないか』とかういふ疑問が起つて來るのであります。成程、考へ様によれば、之は公民といふ字は止しても、國民といふ風にしても良いのであるし、國民教育でも宜しいのかも知れません。けれども、お互ひの氣持として矢張り公民といふ字を使つて見たい。又、文部省を初めとして、公民教育とか、公民科とかいふものを國民教育とか、國民科など、變へると、目指して居るものとびつたりこない。私的生活とか、公民生活とかいふものは、國家と關係のあるかないか、つまり國家と我々の繋りの關係を云ふのである。けれども、そこに國民といふ文字の外に公民といふ文字を使つて居るのは何故であるかといふ事に就ては、之は先づ學者先生によつて色々御講釋があるでございませう。御見解が色々違ふでございませう。けれども、自分の考へでございませうが、私はかういふ風に考へる。國民といふ文字があればそれで澤山であるにも拘らず、何か我々の心持で公民といふ文字を使ふ方が良く考へる。何故であるかといふと、縦の關係と横の關係といふ事でその説明が出來はしないかと思ふのであります。公民といふ事も、國家と國民の關係でありますから、無論縦の關係に結局は歸着

するのでありますけれども、然し乍ら大君にお盡し申上げる縦の關係に歸着する一つの道と致しまして、公民といふ考へは、矢張りお互ひ同志、横にある國民同志が、上下無しに平等の立場にある一君萬民といふ萬民が手を繋いで、横に手を繋いで、お互ひに協力し合つて、横に協力し合つて、下から國家生活といふものを積み上げる。そしてそのピラミッドの頂點に到達をした處が皇室である。そして國民は君國の爲にお盡しをする、かういふ事になるのであるが、只直接に上から下に通る一本の心棒だけでなくて、底部が、底が矢張り廣く、ピラミッド型をして居るその下から築き上げて行つて、頂點に達するといふ形が、物の安定性から言つても一番動かないものであり、横に手をつなぎつ組織を築き上げて行つて、そして之が國家生活に歸着をする國家こそ、眞に根強い國家であります。

目指す所は縦の關係、上下のものであるけれども、然もそれを築き上げて行く爲には、横に手をつなぎで行く。かういふ心持を現はす爲には、國民といふ文字の外に、公民といふ字が必要になつて來るのではないかと思ふのであります。故に言葉は不完全かも知れませんが、上から下を御覽になれば、之は國民であるが、下から上を仰ぎ奉るといふ事に依つて、公民といふ考へが出て來る。下から國民としての本當の責務を果すには、公民として横に手をつなぎつ、上に向つて築き上げて行く。かう

いふ氣持に於て、矢張りこの公民といふ文字が必要になつてくるし、公民といふ考へ方が必要になつて來るのである。立憲政治、更に立憲政治を通して本當に國體明徴を期して行かうといふ場合の過程として、我々は地方自治といふものを有つて居る。各地方々々を、お上から戴いた自治權によつて、その土地その土地をお預りして、そして之を我々の自治的の共同動作によつて治めて行く。その事柄は、結局は國家的目的に朝宗し、歸着して行くのであるが、それからだん／＼のし上げて行つて、地方自治から立憲政治になつて行く。立憲政治を通して、國體明徴に到達して行く。かういふ様な意味に於て、矢張り公民といふ文字が必要であり、本當に國民教育を完成するには、矢張り公民教育として之を取扱つて行くといふ事が必要である、とかういふ様にどうも私共は考へられてならないのであります。

それでございますから、この知らない他人に對しても、——血のつながつて居る者、或は昵懇に致して居る者だけとの關係に止らずして、知らぬ他人に對して、我々は社會連帶を考へる。そして知ると知らざるを問はず、相結んで、そして茲にみんなが手を繋いで、國家の目的に歸着をして行くんだ、かういふ氣持に於て諸般の平等的な社會活動、或は會社組織に於て、或は組合の色々な經營に於て、或はさういふ様な法制上の形を執らないでも、社會上の日常生活に於て、所謂孤獨を守るとかい

ふ様な日常の生活の様式に於きましても、この様式を得ますといふ事が、即ち公民生活のメソッドである。けれどもその公民生活のメソッドといふものはそれ自體の性質を有つて居るのでなくして矢張り國民的の性質をも有つて居る、國家的の性質を有つて居るのであると思ふのであります。

それを言葉を換へて申しますならば、國家公共生活に對して、國家生活、公共生活を矢張り自分のものと考へる。かういふ氣持が大切であると思ふのであります。めい／＼が手を連ねて積上げ、そして此のお上にお盡しをするのであるからして、國家生活といふものと、公共生活といふものは、第三者的存在でなくして、之は自分のものと思はなければならぬ。立憲政治、自治政治の本義を體得する根本は、さういふ立憲生活、自治生活は他人の事でなくして自分の事であるといふ事を考へるにある、この事が一番大切な事であらうと思ふのであります。

今日は偶然、國民として非常に遺憾としなければならぬ二、二六事件の一週忌に當つて居りますがあの事件の起りました時、又その直後に於きまして私が痛感致しました事は、「この實に痛嘆すべき事柄の起つた時に、一般の民衆はどういふ様にこの問題を考へて居るだらうか、たゞ此の先どうなるかといふ不安に止まらないで、之は自分達の物が壞されて居るのであるといふ氣持があるかどうか、一般民衆は、かういふ不祥事件に對して、お互ひの生活を壞されて居るのだといふ事を考へて居るか、

さういふこの重大な事柄、上に於て宸襟を惱ませられる事を、第三者の存在のやうに考へて傍觀的態度を取つて居るんぢやないか、かういふ様な處に於て日本の公民生活の缺陷があるんぢやないか。若し戦争が起つた時に於ては、我々は決して第三者的存在とは考へない。只もう日本人特有の義勇奉公の念からして自分達の問題だと考へるが、二、二六事件なり、五、一五事件に於て、之は自分達の物が壞されたのだ、自分達の、國民の危機が起つたのだといふ事を考へてゐるかどうか……？」といふ疑問でありました。

たゞあれは、政黨が攻撃されただけの、或は一部の財閥が租上に上されて居るといふだけの問題ではない。國民全體の生活の安危の問題である。かういふ風に考へて居るかどうかといふ事は、大きな疑問であると思つたのであります。それには又、政黨の弊害、或は財閥等が經濟上に醸して居りまする處の色々な弊害、さういふ様なものが全體の社會理想を弊して、かたよつた考へをさせるといふ事が原因をするのであります。あゝいふ時に、之は自分達の問題である、立憲自地體の、自分達の問題であるといふ事を、造次顛沛にも忘れずに行く。これが出來て居るかどうかといふ事が、我々に課せられた大きな問題である。そこに大きな狙ひ所があると思ふのであります。

(七) 我が國體及び政體

そこで、こゝに當然起つて參りまする問題は、國體とそれから政體との關係であります。國體の事柄は、茲に改めて申すも畏き事と考へるのであります。この國體、延いては國體によつて我々が純一無雜な國民を形造つて居るといふ點に就ては、之はいくら有難いと思つても、その有難さの感じが足りない。いくら有難いと思つても、尙足りない事を思はなければならぬ。さういふ事柄は、外國の事物と比較致しました時に於て、一層その事柄が明かになるやうに考へるのであります。

誰か知らぬが、昔の人の詠んだ歌に、鷲を畫く場合には、鷲自身を畫くよりは、外から畫いて鷲といふものは判るのだといふ意味を現はす爲に、たしか

それならぬ所々を染めてこそ

墨繪の鷲は畫かれにけり

かういふ歌があるさうであります。誠に要領を得た一つの考へであつて、外から畫いていつて、却つて本當にそのものが判るといふ事があり得る。そこで空氣の中に居りますると、空氣の有難さが割に判りませぬやうに、自分の國に居りまするといふと、此の國體の有難味といふものが、案外空氣

の中に居てその有難味を知らぬと同様、當り前のやうに思へて、その有難味の徹し方が足りないやうに思ひます。處が海外に赴いて、外國の事情と我が國の事情を比較して、日本の有難さが痛感されるのは、第一に簡単な事柄でありますけれども、我々の様に純一無雜な民族を有つて居る國はない。だから觀念に於て、北から南まで一つの日本人といふ考へによつて、事ある場合、一齊に起ち得る。かういふ氣持を有つて居るのは、日本人の外にない。實に有難い。作らうとしても作る事は出來ない。私なども數年間外國に駐在を致して、政府のお仕事を勤めて居つた事がありますが、その當時に於て諸外國の人が日本人を羨ましく思ひます事は、日本人といふその意識の下に、みんなが一つのものに考へられて居られる。此の事に就ては、殊にヨーロッパ諸國の様に少數民族の問題の非常に喧しい處に於ては、非常に此の事柄が羨ましく思はれて居る様に思ふのであります。亞米利加は富強の點に於ては段違ひの様に思はれますが、物質的の富といふものはあるでございませうが、民族の問題に就ては色々な異民族の集りであり、殊に感情に於て實に對立致して居ります。黑人種と白人種の對立、それが、黒人が全體の割を占めて居るといふ點に於て、やがて伸びて行けば伸びて行く程そこに内在する矛盾が餘計になつて來て居る。近頃ルーズベルトのニューデールで労働者の賃銀を高め購買力を増進して行つて景氣を良くするといふ事が主張されて、之は誠に狙ひ所は宜しいのでありましょ

うが、さういふ様に購買力を増進させる爲に労働者を保護するといふ事は、労働者の心を刺激して労働争議を起さしめ、今日實に非常な労働争議が起つてゐる。近頃新聞で見ます通り大きな工場に於ては特にかういふ問題が起つて來る。その事柄の奥には矢張り共產主義の魔手などが動いて居るが、その魔手の動き易いといふ事は、異民族が多く、不平分子が多くて白人種に對して法律上は國籍を持ち乍ら、實に非常な怨嗟の情を懷いて居る。又社會上の生活に於て、同じ亞米利加の國籍を有つて居り乍ら、異人は一流の料理店などに行く事が出來ない。所によれば異人だけの電車は之を別にして居るといふ。かういふ差別待遇に對する怨恨といふものが因になつて、色々な社會問題といふものが紛糾致して居るのであります。まあかういふものと日本と比較は出來ないに致しても、英吉利や佛蘭西の様な風に、民族國家的になつて居る國家でも、英吉利の如きは、スコットランド人はスコットランド人の祭日を有つて居る。そしてイングランド人は又違つた誇りと傳統を有つて居る。況んやアイルランドは英國に對して寧ろ仇敵視して居るといふ實情にある。更にヨーロッパ大陸に參りますならば、所謂少數民族が、異分子の民族が居る爲に、手を焼き困つて居らない所はないのであります。さういふ所を偏歴して歸ると、一層我々がその有難味を感じるのであります。學問的に言へばその起原は色々な血が我々の血に混つて居るでございませうけれども、今日に於きまして日本民族として、

日本人として、我々は打つて一丸となり、隅々に至りますまで一つの意識に於て起ち得る。一つの言葉に於て、一つの民族意識に於て起ち得るといふ事は平凡の事柄の様でありますけれども實に有難い事である。非常な強味であるといふ事を考へなければならぬのであります。その純一無雜な民族といふものが、萬世一系の比類のない皇室の御統轄になる處になり、一君萬民といふ考へによつて、この國民生活を營む事が出来る。そして、お上の方から仰せられて、

義ハ君臣ニシテ情ハ父子ナリ

といふ御方針をお示し下さつて、古往今來我々は義は君臣にして情は父子である如き氣持を以て、上皇室を仰ぎ奉り、上皇室に歸一致しまして、我々が打つて一丸となつて國家活動が出来る。かういふ事の有難さといふものは、寧ろ外を見て我々は一層此の感慨が盛になつて來る事である様に思ふのであります。

そして、この國體の特徴の現はれと致しまして天皇は國家を御統治になりますのに際して、法律上は成程、權力をお行ひになるのであります。權力といふもの、歸する處は、すべて皇室にあるのであります。然し乍ら只單なる外形的權力をお行ひになるのではない。寧ろ權力の中心になつて居りますのは徳である。徳を以てお治めになつて居るのであります。徳の中心が皇室に顯はれる。

かういふ點が外國に比類の爲いものである。國家の統治形式が外形的の權力でなくして、内在的な徳にある。徳を以てお治めになつて居る。此の點が誇つても誇りきれない日本の國體の有難い所ではないかと思ふのであります。歴代の天皇様は、その御趣旨を以て我々萬民を御治め下さつたのであります。相傳へて今上陛下に及んで居るのであります。

(八) 畏れ多き 陛下の御逸事

この機會に於きまして、公けに申す事を許されましたから、一つの御逸事を申上げる光榮を有つてあります。今上陛下のお側近くお仕へを致して居りました侍従を勤めて居られた方から直接に伺つた事でありまして、數年前の事でありました。ある重臣が、重い役について居る人が、刑法上の罪に觸れて、疑獄事件になつて居たので、起訴處分を受けるといふその時に、御承知の通りに身分の高い人の起訴處分には勅許が必要でありますから——勅許を仰ぎますには必要の關係書類を呈してお上の決裁を仰がなければならぬ——その決裁書類を持つて侍従が上つたのであります。その時に陛下に於かせられては、その書類をお受取になりましたまゝ、暫らく机にお置きになつて、只じつとしておいでになる。暫らくの間なんともなさいません。でございますから、侍従の人は御前

に只じつと直立して居つたさうであります。暫く経つてから、漸く御裁可の御印を御押しになりましてお下げ渡しになつたさうであります。その侍従の人が恐懼をしてお部屋を退出しようと致しましたその間に、お上に於かせられては、

『これは自分が足りないからである……』

かういふ事を只一言仰せられたさうであります。『之は自分が足りないからである。朕が足りないからである。』かういふ事を仰せになられたお言葉を承りまして、その私の友人の侍従をして居つた人は、もう立つて居る心持がしなかつた。膝の付根が外れるやうな気がした。どういふ態度をお執り致したらば宜しいかといふ事に就て心が定まらない様な、何とも言へない様な氣持になりまして、本當に恐懼致しまして、御前を退出した。この事を私に嘗て語つてくれた事があるのであります。そしてその事柄は、機會ある毎に、會合の性質によつて申上げて宜しいといふ許しを得たのであります。皆様と共に味はなければならぬ、味はして戴かなければならぬ事は、實に此の御心持、かういふ様な、國家の重臣に過ちのある時は、矢張りこれは、陛下御自身が自分で罪をお感じになり、

罪あらば我をとがめよ天つ神

民は我が身のうみし子なれば

といふ 明治天皇様の御製を、そのまゝ大御心として、我々萬民に對しておむかひになつて御政治をお執りになる。かういふ國柄といふものは、世界廣しと雖も、どこにあるものでございませうか。無論權力を以てお治めになるのであります。權力の中心は寧ろこの至大最高の御盛徳にあり、茲に私は國體の本當の有難さがあり、その國體の下に於て、我々は純一無雜なる民族として、打てば一つに響くこの國民となつて居る事が出来るのであります。

(九) 國體明徴に就て

國體明徴といふ事は、私は外部的に、高壓的に、異端的と考へる説を只排撃するといふ様な、外から加ふる力でもつて、本當にしみるゝと味はさせる事でなくして、内から湧き出る處、滾々として盡きない處の泉の様なその氣持を味はして戴く事によつて、本當に國體明徴の眞義といふものが徹する事が出来ると思ふのであります。この御慈心こそは味はして戴かなければならぬのであります。

只今私の申上げる趣旨の中から湧き出る泉といった心持で、今更乍ら國體の有難味を體得するので

はないかと思つて、此の事を申上げるのであります。

かういふ様な意味の國體、之が政體とどういふ様な關係を以て國家活動が行はれて居るか、之が又公民教育上の大きな問題であると思ひます。

只今休憩中に、只今申しました御治績の事は、近年にあつた事かどうかといふ御質問がありました。之は私の申し方が不完全でありました爲に、さういふ様な疑ひも起つたかと思ひますが、之は比較的近年の事柄であります。従つて今上陛下の御治績であるのでありますから、その事を念の爲に附け加へて置きます。かういふ様な、本當の心の中から感激するやうな事柄を青年の純真な氣持に傳へて、そしてこの國體といふ事は教へて行かなければならぬやうに考へるのでございます。

(十) 帝國憲法の眞精神

敬神崇祖といふ事は根本的な大切な事でありますが、この間も青年學校の公民科の委員會の席上で話の出た事でありましたが、兎角この實際の扱ひ方といふものは外形的に流れ易い。只、例へば團體を組んで、さうして遙拜式をするといふだけに止つてしまふ虞がある。只、外形的に、ある一定の日、



一定の時に一定の所へ集つて、非常に四角張つて、そして遙拜をする。或は色々な行事を行ふ。この事も勿論非常に大切な事であります。形が心を制するといふ事は良くあります事ですから、やらなければならぬ事でありますが、それだけに流れるといふ點がありはしないか。地方によると團體的に一定の遙拜式といふ時だけは色々遙拜をするけれども、今度は一人でもつて外を歩く時は、神社に敬禮もしないといふ青年がある。本當に誰も見て居ないといふ所、神様と自分と、それこそ差向ひになる時に於て、その時こそ一番遙拜をしなければならぬのであるが、さういふ時に於て之をしない。只、集團的に指揮者が號令をかけた時だけに敬禮をするといふ事、たゞさういふ様な團體的の遙拜といふ事だけの形式に流れはしまいか。之は指揮者からの號令で始めて敬禮をするので、心の中から來て居る氣持でなければ、兎角さういふ事になるんだがといふ議が起つたが、之は殊に一番合理的な國體の觀念といふ事に就ては、その狙ひ所が必要であるやうに思ひます。外から強壓的に命令するのでなく、心の中から湧き出る處の已むに已まれぬ氣持、かういふ氣持を、殊にこの感激の心の強い、彈力の強い青年の時代に、若い時に之を養つて行く。その間形式的な事が少しもあつてはならぬ。形式的なものの方が更に嵩しますと、一種の偽善的な事になります。少しでもさういふ場合が混りますならば、之ほどの冒瀆はないのであります。だから、さういふ明朗な教育方法といふものをお互に考へて

行きたいものと思ふのであります。そしてその尊貴性を充分認識致しますると、國體の觀念の上に帝國憲法の示す政體の認識といふものが立つのであると思ふのであります。

御案内の通りに、帝國憲法といふものは、國體と政體と二つのものを規定致した譯であります。國體そのものに就きましては、之は憲法を俟つて初めて之が明かになつたものではないのであります。丁度御神勅以來、開闢以來、日月の如くに明かでありませす事柄を、憲法制定の際に謂は念の爲に、明文化されただけでありまして、憲法を相俟つて始めて定まつた事でない事は、申すまでもない事でありませす。之に反して政體は、之は憲法制定以後始めて此の形といふものが明かになつたもので、所謂今日の立憲政治、政府、帝國議會、裁判所、この三つの作用が、それ／＼異つた體用を以て、そして國政の爲に、國政の機關として働いて居るのであります。又臣民一般に『臣民翼贊ノ道ヲ廣メ』と 明治天皇様が告文に於て仰せられたやうに、帝國憲法の御宣布によりまして、臣民翼贊の道が廣まつた。かういふ様な政體、即ち國家の主權が發動する場合に、その主權の行使の形式がどういふ様に定められるかといふ問題、——主權の行使の形式そのものに就ては、それは帝國憲法によつて、その事柄が始めて明かになつた。その點に就ては、まだ五十年だけの年度が經つてゐないのであります。充分まだ訓練せられなければならぬ點がある事は申すまでもないのであります。只

これに就ても、然らば憲法制定によつて始めて政體の事、即ち立憲政體が定まつたものであるが、何も之が木へ竹を繼いだ様な話ではないのである。外國の制度は無論參酌を致したであらうけれども、外國から漫然と移入されたものであると考へる事は、非常な誤りである。矢張り之は日本の國柄に即した、昔からある氣持を形に於て現はしたものであると考へなければならぬのであります。所謂『臣民翼贊ノ道ヲ廣メ』と申す事は、治められるものが、治める側の責任を分擔する意味である。かういふ風に私は解釋を致すのであります。治められる者が同時に治める側の責任を分擔するといふ事柄は、昔神代の時代に於て、八百萬の神様が、神集ひに集ひ、神議りに議られた事が、即ちそれである。又聖德太子様の十七條の憲法の中に於ても、『大事は獨り斷ずべからず、宜しく衆と俱に必ず之を論ずべし。』と仰せられた此の御精神、又申すまでもなく明治元年に於ける五箇條の御誓文といふものを通じて帝國憲法に至りますまで、矢張りこの日本の國體、その國體の顯れである處の『義ハ君臣ニシテ情ハ父子ナリ』といふ顯はれが、矢張りこの國の進歩と共にかういふ立憲政治といふものを採用になつたこと、必然的の關係にあると考へなければならぬのであります。決して之が、只移入されたものではない。従つて、事が立憲政治に關する問題だけに就ては、之を軽く考へて、よく特種の日本の立憲政治とか、日本固有の立憲政治とか用ひられる様であります。その言葉が何か立憲政治と

いふものは第二義的なものであつて、日本の國體のかういふ特殊性から考へれば、それは勝手に修正が出来ないのであると軽く考へるといふ事は宜しくないものでありまして、之は矢張り、日本の國柄に必然的な關係を有つて、この立憲政治といふものが興へられるやうになつたのであると思ふのであります。

(十一) 獨裁政治は我が國に起らず

之に關聯致しまして、兎角青年の間に新しい事を好みます事の現はれてありますが、近頃はファツシヨ的な考へといふものが現はれて居るといふ事は、お互ひに注意しなければならぬ事でありまして。現に昨年でございましたか、私は選舉肅正の講演の爲にある地方に参りました。そしてその講演の終りました後で、私共が驥尾に附して關係して居る壯年團の關係者の會合を致しました。一寸こゝで壯年團に就て説明しますが壯年團は青年團の二十五歳を過ぎた後に、矢張り孤獨であるといふ事は、修養上淋しい。一番青年時代に於て大切な事は、友人が出来るといふ事である。友人によつて切磋琢磨する事が、一番青年時代に於ける修養に於て力強い方面であるが、その友人生活といふものも、二十五歳で斷ち切つてしまふといふ事は、如何にも惜しい。そして又修養的な意味に於てのものが、それ

から後は所謂世の交際、義理一遍の交際、或は商賣上の交際といふ事だけで、人間の友人關係が終つてしまふといふ事は惜しいから、矢張り二十五を過ぎても矢張り友人關係を有つて、互ひに切磋琢磨して行く、かういふものが作られる必要が有りはしないか。そして進んでは郷土の縁の下の力持ちをして、郷土の爲に協同的に盡力をして、その郷土の爲に盡す。さういふ様な集團を作る必要がありはしないかといふので、この二三年この方壯年團の創設といふ事を申して居るのであります。さうして壯年團の設立が盛になつて居りますが、その壯年團の集會所に於て座談會を開きました時に、随分眞面目な青年、——壯年であります、事實上青年と申しても良い血氣盛んな壯年團の人達の中で、『一體、先生日本の立憲政治はどうなつて行くのだらうか、もうかういふものは下火になつて行くんぢやないだらうか、結局日本も獨裁政治で行くのではなからうか、』

かういふ様な疑をもつて、眞剣に質問をされる方が非常に多いのであります。それは只青年の新しいもの好き、一種の好奇心のみからさういふ考へが起つて、不安を感ずるといふ事ばかりとは言へないと思ふのでありますがこの問題に就て、我々矢張りはつきりした認識を有つて居る必要があると思ふのであります。私は、その場合に結論として、

『外國はどうなるか判らんが、少くとも日本に關する限り、日本こそは立憲政治でゆくべきものであ

つて、決して獨裁政治なんてもので行はれるといふ事はない。』

と、かういふ事を申すのを常として居るのであります。それで先づ、冷静に實證的に見て、社會情勢が日本に於ては獨裁政治といふもの、成立を許さないものであり、獨裁政治の起りました國は、伊太利といひ、獨逸といひ、環境がさういふものを作るに適して居るのであります。

それは何であるかといふと、第一に經濟上に絶望的の狀態に陥る。さういふ様な時に、立憲政治の中止、獨裁政治の擡頭が起るのであるが、さういふ様な經濟的の絶望狀態といふものは日本にはない。それから第二には、國際的の屈辱感の強い、かういふ様な時に於て常軌を逸し、立憲政治を中止して、そして變則的な獨裁政治によつて國の結束を固めようといふのであるが、日本にはさういふ國際的な屈辱感はない。伊太利や獨逸に於て獨裁政治が起りました時には、符節を合はせた様にこの二つの現象が現はれたのであります。十年前に獨裁政治を確立致しました時に於て、伊太利の經濟は、戦後の痛手を受けて、ものゝ恢復といふものが思ふ様に行かない。のみならず共産黨が非常に力を入れて、労働組合に共産主義の魔手が及びましたので、その多くの工場を占領するとか、鐵道を占領するといふので、汽車も時間の通りには動かない。従つて食料品の配給は全然困難になり、國民の明日食へる食物も覺束ないといふ事になつた。經濟上かう云つても戦争によつて受けた打撃は生産力

といふもの、生産機能の根本を破壊して、消費資料の配給といふものも充分にいかない。かういふ様な現象に於て、非常な悲境に沈淪を致したのであります。それから國際的には、戦勝國の側には列したけれども、自分の初め期した様な植民地は得られず、佛蘭西に甘い汁を吸はれて、その糟ばかりを嘗めらせられるといふので、その當時に於ける伊太利の國際的屈辱感は非常なものである。その爲にダヌンチオの如きは、あゝいふ様な、我慢しきれないで抜け駆け的な行動を試みるといふ事に至つたといふ様な有様でありまして、至る處不平不満の情が盛であつたのであります。かういふ時でありますから、強き腕を持つて居る者が獨裁政治をして行く事が出来たのである。それでムツソリーニが力を得たわけであります。

それから獨逸に於て、近年ヒットラーが勢力を得て居るのに就て、或る人が之を皮肉に觀察して、『亞米利加の不景氣があんなに激化しなかつたら、ヒットラーもあの位の勢力を得なかつたらう。』と申して居りますが、御案内の通りに、ベルサイユの平和條約で、手も足も出ない様に抑へつけられて、償金も何千億マークといふ殆ど數學的な巨額のものであり、陸軍は十萬以上を超えてはならない。海軍も氣の利いた軍艦は四艘以上持つてはならない。又空軍は全然持つてはいけない。植民地も外國の委任統治にするといふ様に、手も足も出ない様に縛られたのみならず、經濟上非常な打撃を受けま

して、一時は一マークの價といふものが一厘にも價しないといふ様になつて、中産階級は全然没落をした。實に凡ゆる苦痛困難を嘗めたのでありますが、それでも亞米利加から金を借りられて居ります時は、一時しのぎにたぐ事が出たのでありますが、昭和五年に亞米利加の不景氣が起りましてから以來、亞米利加から金を借りられないので、一層混亂の度を極め、その爲に青年は擧つて右傾的思想に陥り、ヒットラーは一躍して英雄となり、さうしてすべての今までの基礎生活といふものを破壊して、ベルサイユ平和條約も破壊し、破壊するの擧に出で、國內に於ては、同時に憲法を廢棄して、獨裁をしくといふ事になつたのでありますが、我が國に於ては國際的の屈辱、經濟的の絶望の最近のふものは全然無いのでありまして、經濟的に於ても農村の疲弊はありますが、御案内の通り、況といふ日本の貿易などの進展は諸外國に較べれば、非常に好況でありまして、この諸外國は、昭和三年頃には較べますといふと、近頃は貿易が恢復したと言ひ乍ら半分になつたとか、或は四割になつたとかいふ様な情況であるのに對して、日本では昭和三四年頃には既にそれ以上になつて居り、昭和六年は景氣が良かった譯でもあるが倍になつて居るといふ様に、貿易の恢復の點から見ても諸外國から非常に羨まれて居る。今後どうなるかといふ點に就ては心配がありますが、最近の狀況に於きましては經濟的に於て寧ろ羨望される地位になつて居るので、絶望などいふ事が第一最初からない。

ある筈はない。又國際的問題にしても、油断は禁物であるし、又進む所と退く所と宜しきを得ませんと、さういふ事に難儀があるけれども、只今までは極東に於ける日本の指導的地位に對して、唯一點の疑を挿む者はないので、寧ろこの國際的の優越感こそ感じて居りますが、國際的の屈辱感はいわゆる我々の中には少しもないのであります。さういふ様な樂觀的の條件の備はつて居る處に獨裁政治が起る筈はない。

それから第三に、御案内の通りに、我が國に教育が普及して居り、就學歩合の高いといふ點では世界で一番であるといふ例がある。高等教育も近頃は發達して居つて、寧ろ高等遊民の増加に苦しんで居るといふ様な有様である。で、斯くの如く教育が普及し、程度も高まりつゝある我が國に於て、獨裁の芽を植ふる事は困難である。先づその例外は獨逸であります。獨逸は經濟的、國際的の狀況によつて獨裁政治になつたのでありまして、それ以外は例へば伊太利の如き、又西班牙にしても、プリモトレベラーといふ人が、千九百二十三年でございませうか、それから千九百三十一年までの間、軍人の獨裁政治をやつて居つた。全部軍人内閣を作つて、議會政治も何も止してしまつた。その獨裁政治の餘弊から反動を起しまして、革命が起つて、それが轉々して今日の様な紛糾状態になつたのであります。が、プリモトレベラーの獨裁政治を行ひました西班牙の教育狀況を見ますと、實に無學な人間

が多い。農村地方に参りますと、無學者が四割位であるといふ様な状態があります。それから伊太利の南部に参りましても、三四割は無學であるといふ様な有様、其の他ヨーロッパ諸國で獨裁政治の戦後に起りました國は、ハンガリーでありますとか、ポーランドの如きも、議會といふものは形式的には存續して居りますが、事實に於ては此の間死んだベルスキーといふ人が獨裁政治をやつて居られたと言つても宜しいのであります。又ユーゴスラビヤに於ても、それから共産黨の一派で獨裁政治を行つて居りますあの露西亞に行きましても、非常に就學歩合が低く、無學な人間が多いのであります。

デラーシといふ佛蘭西の社會學者が「二つのヨーロッパ」といふ本を書きましたが、『同じヨーロッパでも、AとBとある。その區分線は斯々だ。』といつて、ヨーロッパの眞中の所がAで、その周りがBであるといふが、このヨーロッパBに屬する所は商工業が發達をしない。鐵、石炭がない。教育が普及して居らないのであるが、さういふ様なヨーロッパBには獨裁政治が起り易い、といふ觀察をして居りますが、獨逸を除くとそれが當筈つて居る。

かういふ狀況に較べますといふと、我が國は寧ろヨーロッパAの方に近い。かういふ様に教育も普及して居つて、卒然として獨裁政治が起る筈はないと思ふのであります。

それから第四には、我が國の國民性は、悪く言へば非常に浮薄で深刻を缺いて居りますが、非常に温和中正である。極端に物をとことんに追ひ詰めて行つて、敵と敵とが互ひに肉を喰はなければ飽きないといふまでに調伏し合ふといふ事が起らない。ある一定の所にゆくと、調和點に達して、互ひに一種の緩和妥協を致す。その事の爲に、或は外來の教へを迫害したが、結局佛敎儒敎も矢張り攝取をして、寧ろ日本の思想を豊富にする材料に使つてゐる。かういふ風な日本の國民性から考へて、理窟上から見ましても日本が極端な獨裁政治といふものに陥るといふ事が考へられないといふ事も言へます。更にもう一つの點として、獨裁政治の行はれます所には、必ず政治的英雄がある。例へば伊太利に於てはムツソリニが居ります。ムツソリニは伊太利を旅行すると判りますが、伊太利に於て偶像扱ひであります。どんな所でもムツソリニの肖像を掲げない所はない。又實際掲げないで居ると、お咎めを喰ふかも知れんし、或は又お禁厭の積りでムツソリニの肖像を掲げて居る所もありませう。兎に角人爲的の勢力も加へる事は加へる。といつても之は必ずしも強制をせられないでも、自ら所謂「磔礫船を埋む」とかで、叩き込まれた結果十何年も絶つと、氣持の上でも神様扱ひをする様になつて來るので、今日彼等はムツソリニを神様扱ひにして居るし、又ムツソリニにしても、自分から『自分には彈丸が當らない。』といふ確信を有つて居る。かういふ様に偶像化されて居る。それでなければ獨

裁政治は出来るものではない。一面に於ては自由を壓迫する、言論の自由を認めないで壓迫する。非常な鐵腕を以て、自分の政治に都合の悪い者は有無を言はず抑へつけるのでありますから、その抑へつけるといふ無理な事をするにも拘らず、それに人氣が出来る爲には、矢張り中心人物に一つの偶像的崇拜心といふものを國民に起させなければ、之は出来ないであります。獨逸のヒットラーの如きもさうであつて、近頃は挨拶をするのにまでも、朝夕の『お早う！』とか『今晚は』といふ挨拶も、變てしまつて、『ハイルヒットラー』といふ風に言はせる様にして居ります。『ヒットラー萬歳！』といふ。『お早う！』と云ふ代りに、『ヒットラー萬歳！』といふ様に言はなければならぬ。

それから露西亞に行きましても、到る所にレーニンの肖像がある。集會所とか學校に行きますと、この集會所の隅には、『赤の隅』がありまして、小高い所に小卓があつて、その上にレーニンの肖像がある。又クレムリンの王宮の前にはレーニンの墓がありますが、この墓の構造を見ますと、我々の考へた様な墓ではない。寧ろ屍骸陳列所と言つた方が良いでしょうが、レーニンは十何年前に死んだのですが、死んだ直後に或る薬を注射しましたので、生きて居る通りになつて居て、今は中身の屍骸のまま保存されて居ります。私も六七年前に参りました時にそれを見ましたが、その時死後數年経つて居りますけれども、一向腐つて居らない。聞く處によりますと、只今参つても同じ事ださうですが、

一種の秘法でして、秘密の一つの薬を注射した爲に、屍骸がそのまま保存されたのです。それをガラスの箱に入れて安置をして、そのレーニンの墓には一定の日に全國の農民が集つて、後から順序正しくレーニンの肖像の前に行つて敬意を表する。まるでレーニンが一つの偶像になつて居る。共產主義は、元來は唯物史觀の上に建てられて居る。唯物史觀は偶像とか、人格的感化、宗教的感化を馬鹿にする思想であるにも拘らず、あの冷たい唯物史觀も共產主義を成り立たせる爲には、矢張り血と肉を通して居る人格を即ち、レーニンを中心にしなければ、この共產主義の精神といふもの、徹底が出来ないといふ點に彼等の唯物史觀の矛盾が現はれて居ると考へたのであります。かういふ様に、矢張り一種の偶像崇拜がなければ、獨裁政治といふものは行はれないのであります。

處が、我が國に於ては、さういふものは到底起り得ないと思ふのであります。我々の國民の胸の中にあります、この最も普遍的な最も絶對的な崇敬の念慮の向ひます處は、畏れ多くも 一天萬乘の皇室であります。

皇室以外にその中間に於て、偶像的な英雄になります政治的人格者の存在といふものは、日本の國柄が許さないのであります。而して我々の絶對の崇敬の念慮を捧げます處の 皇室に於かせられては、常に中庸穩健の道をお教へになつて居るので、現に 今上陛下は、國際聯盟脱退の際に、『嚮

『所正ヲ履ミ行フ所中ヲ執リ』といふ事をお教へになり、そして 明治天皇様以來、帝國憲法によりまして、我々は矢張り臣民翼賛の道を盡し來つたのであります。陛下が立法權を御行ひになりますには、帝國議會の協賛を経て、御行ひになる。その衆議院は矢張り選舉法の定むる處によつて、公選せられたる議員、衆議一致の氣持で各位が選んだ議員で構成する。その衆議院議員を構成分子として立法權の翼賛といふ尊い職務を盡さなければならぬ。この立憲政治で行かなければならぬといふのでありますから、よその國はどうであらうとも、日本に關する限りは矢張り之でなければならぬゆかない。さればこそ、動もすれば、時に立憲政治が累卵の危きに置かれる様な災禍に於ても、その結果から見まするといふと、危きが常に避けられて、結局は矢張りこの臣民翼賛の態度が廢らないといふ事は、之は決して偶然の事ではないと思ふのであります。只、お互ひに考へなければなりません事は、立憲自治のこの考へ方といふものが、憲法が發布されて未だ五十年以來、封建政治が倒されて七十年、封建政治の間は長いのであります。日本の古來の道は、先刻申しました通り、神裔りに裔り、神集ひに集ふ、神集ひに集ひ、神裔りに裔るといふ事でありましたが、長き時代に於きまして、中間に存在する權力者が存在しましたので、封建政治の結果、民は奴隸の如くに、納税をする機械の如くに諸侯によつて治められまして、原則として政治上の人格を認められない。治められるといふ側であつて、治

める側に資格を持つ事が出来ないといふ事が、長い間に亘つて續いて來たのであります。それが倒されて七十年、立憲政治が明文化してから五十年足らずでありまして、まだ治められる者が治める側の責任を盡すといふ事に就ての道德といふよりは習慣が付いて居ない。御婦人の方もお在ですが、家庭教育の上からいへば、集團生活に於て、一人々々の人が世間に責任を盡すといふ立憲政治の習慣といふものが、充分樹立をして居らない。之が弱點であります。然し乍ら長い歴史の眼から見れば、七十年五十年は短いものである。只今の成績を以て事を斷ずる事は出来ないものであります。私は本當に公民教育といふものが言葉の上でなく、分析的の字句の解釋、説明、法制經濟の斷片的な知識の集積といふのでなくして、精神的に公民教育が行はれて進みまするならば、必ずこの立憲自治の見事な習慣といふものは、日本の固有の美風と相俟ちまして、よその國に勝るとも劣らない確かな態度といふものが樹立されるものであると思ふのであります。それにはみんなが心眼を開いてそしてこの公人生活に對する處の一人の分を良心的に感じ、常に之を盡すといふ氣持が大切であると思ふのであります。

私は、選舉肅正の講演を致しまする場合に常に申しますが、投票をするのに秘密投票の制度をとつて居る、つまり投票をする場合に誰が投票をしたかといふ事は判らないやうになつて居る。又設備も

さうである。ちやんと仕切があつて、誰が投票したかといふ事は判らない様になつて居るが、あれは只、法律的に解釋しただけでは足りないのであつて、あの秘密投票の趣旨は、つまり神様とたつた二人きりで、良心から誰が宜しいかといふ事を考へて、候補者の名前を書くのである。

目に見えぬ神の心に通ふこそ

人の心の誠なりけり

と仰せになりましたその御趣旨を體して、この投票用紙に候補者の名前を書く事が、秘密投票の秘密投票たる所以である。一人の分を盡す、この考が秘密投票の一番根本的な理由である様に自分は思ふのでありますが、みんなの仕事、萬人の仕事だといふ事は、誰もの仕事でない事に成り易い。これは立憲自治の道徳を進めて參ります場合に注意しなければならぬ要點であると思ふのであります。元來立憲政治は凡人道徳である。何千萬分の一といふ細胞的な道徳の集積、それが良き議會を作り、陛下の政治に翼賛し奉るので、凡人が一人々々の小さな細胞的な義務を盡す事が集積するのであるが、そのみんなの仕事、みんなの責任といふものは、良心を研ぎすませないといふと、誰の仕事でもない様になるのであります。

鳩翁道話の話にありました様に、還曆の祝ひに達して、或る大工の棟梁を祝ふ爲に、酒一升づゝ持

寄つて、樽に詰めて上げるといふ事になつた。此の場合に一人の弟子に心の緩みがある爲に、自分が入れんでも、外で入れるだらう。』といふので水を入れた。處が外の弟子もその眞似をしたので、結局酒の代りに水を上上げたといふ事があります。これは今のすべての人の仕事といふ事は、誰もの仕事にならぬ事になるといふのと同じ譬へ話であると思ひますが、立憲自治の根本義に於て、之が凡人道徳でありますだけに、氣をつけなければならぬ事がそこあります。人見ずとも自分の分を盡す、目に見えぬ神の心に通ふこそ

人の心の誠なりけり

結局私は、獨りを慎む、自分自身の心の奥底に分け入つて、心の芽を育て、行くといふ事が、これが公衆道徳の一番根本であり、團體道徳、國家主義の發揚といふ事の一つ根本であつて、その意義に於きまして國家が社會公衆の問題を扱ひます處の宗教心といふものが打つて一丸となる處に、非常な味はひがある點であると思ふのであります。

修身及公民科として文部省が今後皆様に青年教育を御指導戴く場合に於て、総合的に教へを戴くといふ事を方針とされて居る事の味はひに、私は盡きせぬ味を玩味しなければならぬと平生から考へて居ります。

誠に迂遠なお話で、皆様方には釋迦に説法の様でありました事を、衷心忸怩と致すのでありますが、私の考へて居りましたまゝを順序もなく皆様に申上げた次第であります。之で終りと致します。

正誤表

頁及行数	正	誤
一一頁一四行目	興奮的	昂奮的
二九頁六行目	黑人	異人
二九頁一四行目	遍歴	徧歴
三六頁一〇行目	告文	告文
四二頁八行目	況と	最と
四二頁九行目	近の	況と

公民教育叢書

第壹輯 青年と公民教育

前田多門

第貳輯 青年を對象とする公民教育

東北帝國大學 教授 廣濱嘉雄

第參輯 女子と公民教育

東京帝國大學 講師 大島正徳

第四輯 女子を對象とする公民教育

九州帝國大學 教授 大澤章

275
92

終